

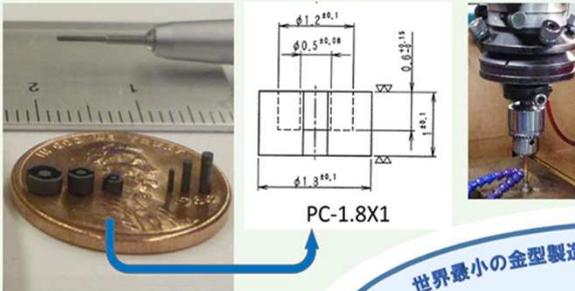
第69期 中間報告書

2019年2月1日から2019年7月31日まで

金型微細加工 世界一

Micro machining

= 微細金型 =



Technical drawing of a mold part labeled PC-1.8X1 with dimensions: $\phi 1.2^{+0.1}$, $\phi 0.5^{+0.08}$, $0.6^{+0.1}$, and 0.1 .

短納期対応・品質管理

Mass production

= 自社一貫量産体制 =



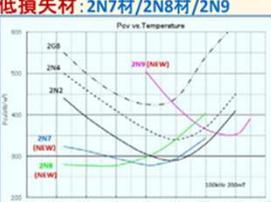
世界最小の金型製造を可能にした技術による量産体制

TOMITA'S M4

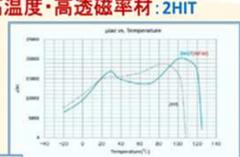
Technique The smallest fine mold in the world.

小型のトミタ：小型サイズのエラストコアを得意としております。

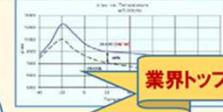
低損失材：2N7材/2N8材/2N9



高温・高透磁率材：2HIT



高周波・高透磁率材：2H2C

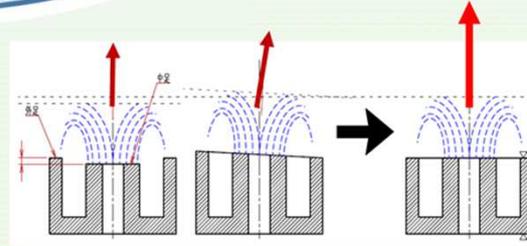


業界トップレベルの材質ラインアップ

Material Commitment

= 材質へのこだわり =

精密加工技術



Maximizing performance

= 性能の極大化 =



トミタ電機株式会社

株主の皆様へ

ここに当第2四半期連結累計期間（2019年2月1日から2019年7月31日まで）における事業の概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におきましては、米中貿易摩擦による中国経済の悪化と長期化、更にそれに関連する国内電子産業の低迷といった影響を、中国ならびに国内市場において、まともに受けております。

米中関係は改善方向に向かい年後半からは世界経済は再び堅調に推移するものと予想しておりましたが、それが全く逆の方向に進み、事業環境において先行きに不透明感が増しました。

当電子部品業界といたしましては、車載関連、スマートフォンやこれまで好調だった半導体製造装置関連、産業機器関連、ICT関連等多くの分野の需要が伸び悩み、全体として低調な推移となりました。

このような市場環境の中で当社グループは、小型フェライトコア並びにコイル・トランス製品を中心とした拡販活動を国内外市場で積極的に展開いたしました。また、海外での製造原価低減と品質改善に取り組み、世界競争に打ち勝つことの出来る高性能で高品質の製品を生産すべく活動を続けてまいりました。

当第2四半期連結累計期間のフェライトコア販売、コイル・トランス販売は国内外市場で減少し、売上高は5億3千2百万円（前年同四半期比27.2%減）となりました。損益面では、生産及び検査設備の自動化、更新等生産効率の向上による原価の低減ならびに、経費等の削減に努めましたが、営業損失は1億2百万円（前年同四半期は1千6百万円の営業損失）となりました。経常損失は1億2百万円（前年同四半期は1千3百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億4百万円（前年同四半期は1千万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

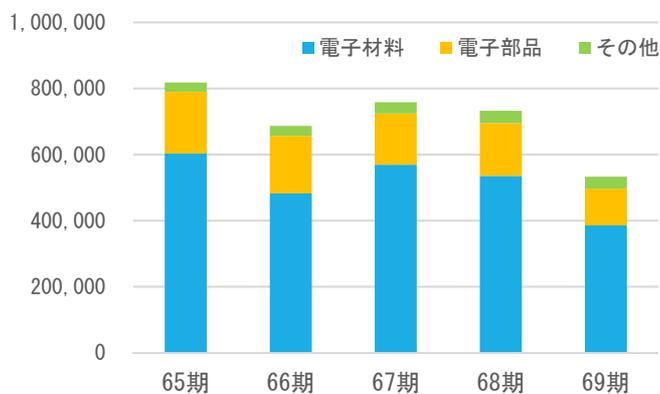
株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年10月

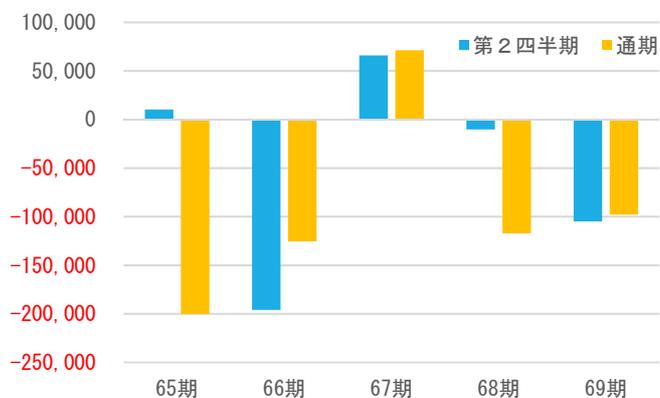
代表取締役社長
神谷哲郎

連結財務ハイライト

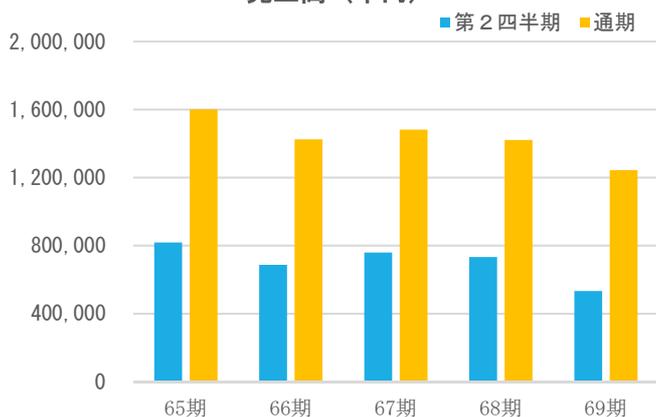
部門別販売実績（第2四半期）（千円）



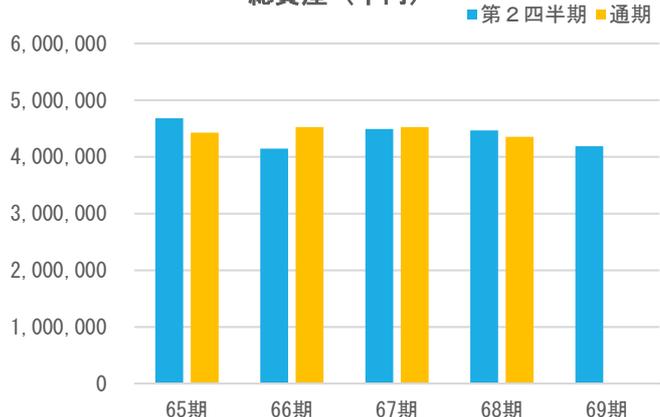
親会社株主に帰属する当期純損益（千円）



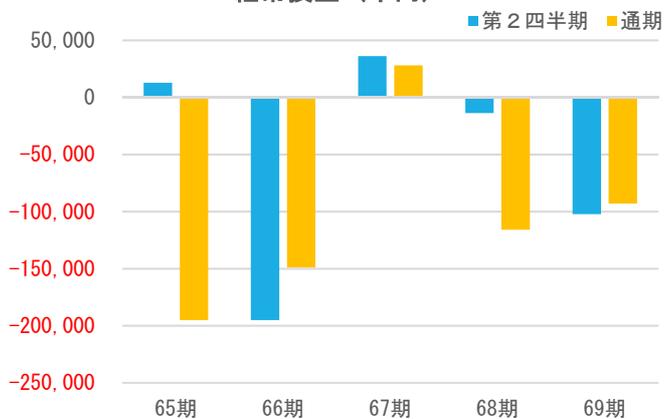
売上高（千円）



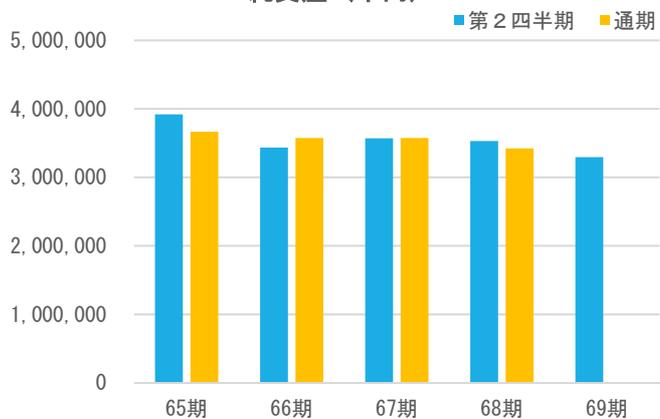
総資産（千円）



経常損益（千円）



純資産（千円）



（注）第69期の通期は業績予想によるものです。

通期の見通し

今後につきましては、5G、EV、AI、IoT、産業機器、医療機器における国内外市場での新規開拓に向け、中国・香港・欧州営業窓口と共に販売拡大を図りながら、海外生産工場の継続的な品質改善や経費削減に向けた取り組みを推進し、利益重視の体制を強化してまいります。

重点課題として以下の3点に取り組みます。

- ① 5G、EV、AI、IoT、車載、産業機器、医療機器関連の新規受注獲得
- ② 原価低減に向けた品質改善と省力化、自動化の推進
- ③ 高信頼性、高効率化を目的とした材質開発の促進

(単位：千円)

科 目	当第2四半期連結 累計期間業績	2020年1月期 見通し
売上高	532,934	1,243,000
営業損失(△)	△102,346	△93,000
経常損失(△)	△102,185	△93,000
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失(△)	△104,898	△98,000

要約連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：千円)

連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	当第2四半期末 (2019年7月31日 現在)	前期末(参考) (2019年1月31日 現在)	科 目	当第2四半期累計 (2019年2月1日から 2019年7月31日現在)	前第2四半期累計 (2018年2月1日から 2018年7月31日現在)
資産の部			売上高	532,934	732,242
流動資産	2,094,533	2,256,871	売上原価	417,725	514,583
固定資産	2,092,832	2,096,187	売上総利益	115,209	217,659
資産合計	4,187,365	4,353,058	販売費及び一般管理費	217,555	233,842
負債の部			営業損失(△)	△102,346	△16,183
流動負債	159,097	197,337	営業外収益	3,153	2,983
固定負債	734,231	733,238	営業外費用	2,992	582
負債合計	893,329	930,575	経常損失(△)	△102,185	△13,782
純資産の部			特別利益	—	6,173
株主資本	3,079,100	3,184,042	特別損失	204	110
その他包括利益	214,936	238,440	税金等調整前 四半期純損失(△)	△102,389	△7,720
純資産合計	3,294,036	3,422,483	法人税、 住民税及び事業税	2,508	2,553
負債及び純資産合計	4,187,365	4,353,058	四半期純損失(△)	△104,898	△10,273
			親会社株主に帰属する 四半期純損失(△)	△104,898	△10,273

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てにより表示しております。

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てにより表示しております。

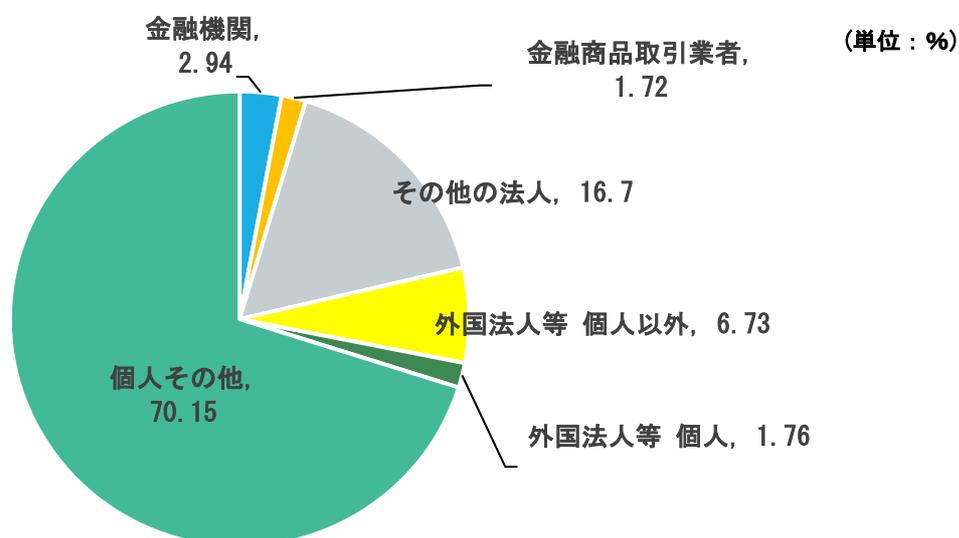
株式の状況

株式の状況（2019年7月31日現在）

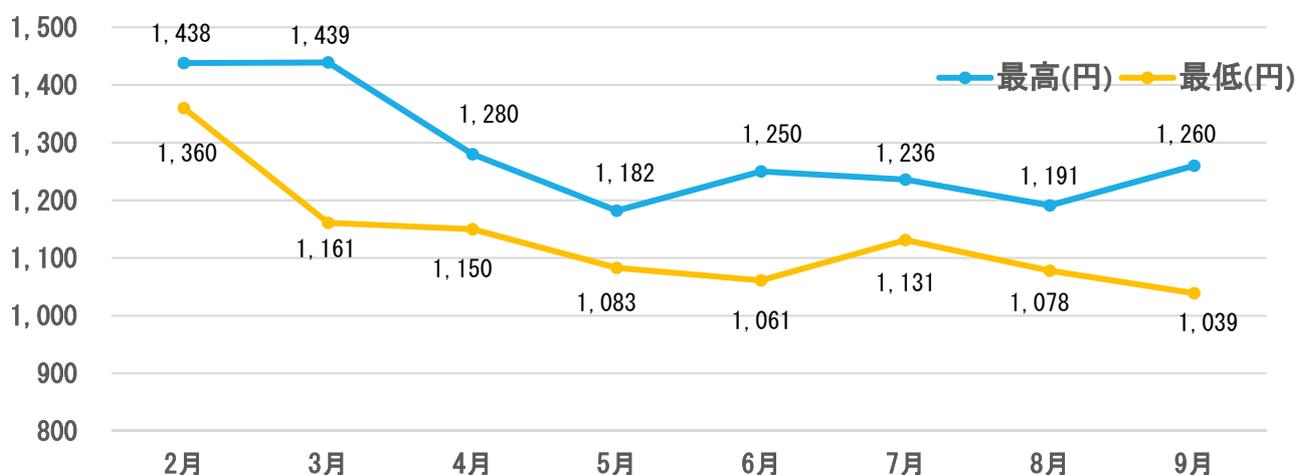
発行可能株式総数 1,600,000株
 発行済株式の総数 816,979株

所有者別状況（2019年7月31日現在）

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）						単元未満株式の状況（株）	
	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
				個人以外	個人			
所有株式数（単元）	239	140	1,360	548	143	5,712	8,142	2,779
所有株式数の割合（%）	2.94	1.72	16.70	6.73	1.76	70.15	100.00	—



最近の月別最高・最低株価



(注) 株価は、株式会社東京証券取引所 JASDAQ（スタンダード）における最高・最低株価を記載しております。

株主メモ

事業年度	毎年2月1日から翌年1月31日まで
定時株主総会	毎年4月
定時株主総会の基準日	1月31日
剰余金の配当の基準日	1月31日 中間配当を行うときは7月31日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
インターネット ホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 (https://www.tomita-electric.com)

【株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会】

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

当社の株価情報からIR情報などJASDAQのWeb Siteでご覧いただけます。

